

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2023年 12月 6日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 複合原子力科学研究所

職 名 助教

氏 名 谷垣 実

助成の種類	令和5年度・国際会議開催助成		
国際会議名	超微細構造相互作用国際会議(HYPERFINE 2023)		
開催期間	2023年 11月 13日 ~ 2023年 11月 17日		
開催場所	奈良春日野国際フォーラム 薨~I・RA・KA~		
参加者	総数 173名	内訳 海外:現地 42(内学生 11)、オンライン 11(内学生 0) 国内:現地 120(内学生 40)、オンライン 0	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	6,648,520 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	参加費、共催金:日本放射化学会、助成金:奈良県ビジターズビューロー、協賛金: ジェック 東理社/アトックス/仁木工芸/ブラケン/東レリサーチ	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	運営費(会場費、webサイトなど)	2,144,870	627,435
	若手支援(宿泊費、記念品など)	372,565	372,565
	配布物(要旨集、バッグなど)	455,549	
	飲食代(コーヒー、パンケットなど)	2,090,290	
エクスカーション	730,486		
学生アルバイト謝金	517,294		
その他(運送費、手数料など)	337,466		
合 計	6,648,520	1,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) おかげさまで当該国際会議も成功裡に終わりました。入金等も迅速に対応いただき大変助かりました。いただいた支援で国内外の若手研究者や学生に充実した支援が提供でき、多数参加していただくことができました。深く感謝いたします。 一点お願いがあるとするれば、助成を受けたことをWebページ等に表示するためのバナー画像を用意いただきたいです。後援・協賛企業や学会から、会議のWebページに当該企業・団体から指定されるバナーの表示を求めるところが多く、それらと並べて表示しやすくなります。		

国際会議開催助成 成果の概要

複合原子力科学研究所

助教 谷垣 実

令和 5 年 11 月 13～17 日に奈良春日野国際フォーラム 豊～I・RA・KA～において、International Conference on Hyperfine Interactions and their Applications (HYPERFINE2023)を開催した。1967 年開催の第 1 回から数えて通算 21 回目、日本では 1992 年の第 9 回以来 2 回目の開催となった。

今回の国際会議はコロナ禍の影響が残る中での参加申し込みとなったが、26 の国・地域からの 53 人の外国人研究者を含む 173 人の参加があった。超微細構造相互作用を利用した核磁気共鳴 (NMR)、レーザー分光、ミューオンスピン緩和/回転/共鳴(μ SR)、メスbauer効果/核共鳴散乱、摂動角分布/相関(PAC/PAD)といった研究手法を活用した基礎物理学上の根本問題、原子核構造、物質科学、ソフトマターなどに関する実験的・理論的研究に関する招待講演 19 件、一般講演 32 件、ポスター発表 114 件の研究発表と活発な議論が行われた。近年実験設備の整備が進んで幅広い分野への応用が進む μ SR や産業界でも関心の高いソフトマター関係の発表とともに、古参の研究者による分野のレビュー的な講演もあり、研究分野の最新の動向と歴史を一度に知ることができる国際会議となった。

今回の国際会議では、分野のさらなる発展のために若手研究者育成を目標の一つとして掲げたが、京都大学教育研究振興財団の助成を活用して学生や若手研究者への充実した支援を行うことができた。学生の参加費自体を低く抑えただけでなく、10 名の国内在住若手研究者に参加費の免除、5 名の海外若手研究者に会期中の宿泊提供を行うことができた。また、本国際会議における若手研究者の優れた研究発表を表彰する Young Presentation Award を設けた。審査委員会および会議参加者の評価に基づく厳正な審査の結果、口頭発表部門で 2 名、ポスター発表部門で 3 名の学生と若手研究者を表彰した。

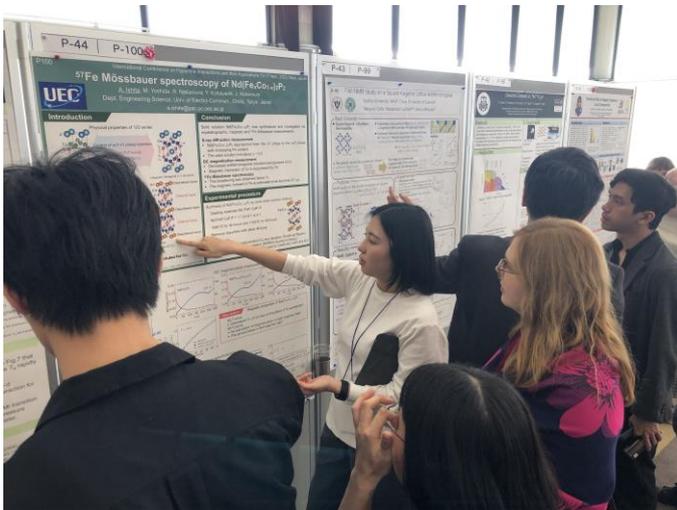
このような若手研究者への充実した支援の効果は会議への参加者に占める若手研究者の比率にもはっきりと現れ、会議参加者に占める学生の割合が 3 割にも達したほか、旅費の負担が大きい海外からも 11 人の学生の参加があった。そして、参加した学生や若手研究者たちが会場内のあちこちで活発な議論や交流が行っていたことが印象的であった。

なお、今回の若手への多彩な支援や研究奨励の取り組みに対しては、超微細構造相互作用国際会議の企画と運営に関する助言を行う国際委員会である International Advisory Committee や Executive Committee から特に高い賞賛を受けている。

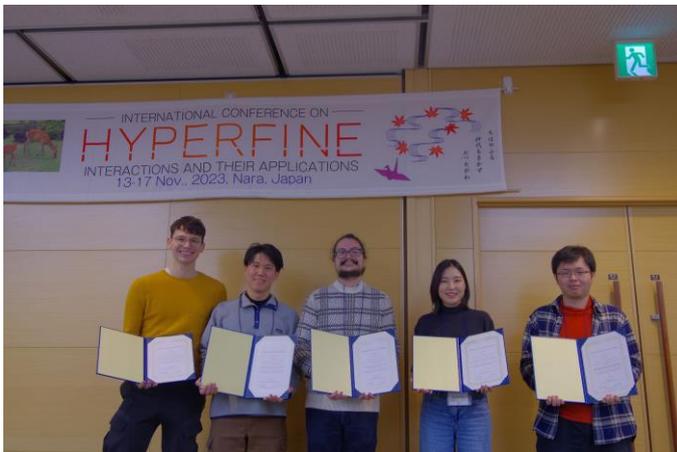
このように今回の会議が成功裡のうちに終わられたこと、また若手研究者への充実した支援や研究奨励が行えたのも京都大学教育研究振興財団からいただいた助成のおかげである。改めて深く感謝する次第である。



超微細構造相互作用をキーワードにした幅広い分野の研究発表が行われ、分野を超えて熱心な議論が行われた。



ポスター会場では若手研究者同士の活発な議論が行われていた。



若手研究者の奨励のため設けられた Young Presentation Award には口頭発表部門で 2 名、ポスター発表部門で 3 名が表彰された。



26 カ国から 173 名の参加があり、盛会のうちに会議を終了した。